

2014春闘討論集会

協議会での奮闘と春闘の追い込みを決意

(北陸信越5県ハイタク)

2014年3月3日～4日 北陸信越5県ハイタクが2014春闘討論集会を石川県内で開きました。

北陸信越5県（新潟・長野・石川・福井・富山）は、さる3月3日、4日の両日、石川を主催県として、「北陸信越5県ハイタク2014春闘討論集会」を開催し、会場となった和倉温泉「あえの風」に全自交の北信越5県の代表と、全自交本部・松永書記長、中部地連・犬飼委員長、北信越局石川支局松本主席企画専門官などを招いて、総勢80名が結集して開きました。



討論集会は、地元の石川ハイタク連合会中茂弘執行副委員長の司会により、長年にわたり石川ハイタク連合会書記長として活躍し、本年1月31に急逝された故尾崎豊吉氏（享年64）を偲び参加者全員による黙祷を捧げての開催となりました。その後、主催者を代表して、中江川和臣前委員長から引き継いで石川ハイタク連合会の大村友康執行委員長から参加者に歓迎の辞と、現在置かれているタクシー新法とハイタクの現状を含め挨拶討論集会が実りあるものとなるよう挨拶しました。続いて、昨年11月に結成した「中部地方連合会」の犬飼政則執行委員長から来賓挨拶を受け、北陸信越局と中部運輸局にかかる中部地方連合会において、北信越五県と東海地方を含めた運動の前進と団結を強化し中部地連が一体となって全自交運動を支えていこうと訴えました。続いて、北信越局石川支局の松本英二主席専門官から、「改正タクシー特措法」の概要と要点についての講演を受け、質疑応答では、「構成員に運輸局が入っていないことから円滑な協議会運営がなされていない」（新潟）や、「同一地域・同一運賃を求めていく中で公定幅運賃（上限・下限）の選択範囲が多すぎる」（長野）とか、「法案成立に際し事業者に対する様々な参院附帯決議（歩合給料と固定給のバランスの取れた給与体系の再構築・累進歩合の廃止・事業経費を運転者に負担させる慣行の見直しその他）がなされている。今決議を踏まえ運輸局としてどのように対応していくのか」（富山）など、質問が出され、松本主席専門官からは、「協議会運営に構成員として名を連ねていないことでのご批判は承知しているが、今後、事業者・労働者にとってより良い方向性が見出すよう“黒子役”として尽力していきたい」、「附帯決議は意義あるものとして今後労働局と連携して対処していきたい」などとの回答を得ました。休憩をはさみ、松永次央全自交労連中央書記長からの講演を受け、全国で実施されているタクシー協議会の状況報告や協議会における会長選出、議決方法など、今後

の協議会運用面における注意喚起があり、一部事業者による深夜割増撤廃、大手海外資本によるタクシーアプリ開発・導入（運転者負担増）などの動きに対する問題提起があり、第一日目は終了しました。

翌、二日目は各県の春闘報告や地域協議会報告があり、最初に福井地連川崎委員長から、順次、長野地連中村書記長、新潟地連街道書記長、富山地連石橋委員長と続き、最後に石川ハイタクでは、亡くなった尾崎書記長の後任として準備をしている石川交通労組の土倉賢一書記長から報告がありました。

各県の春闘状況報告では、これから要求提出、回答指定日に向けて春闘がスタートする報告があり、石川ハイタクの先行した取り組み日程では3月26日のヤマ場回答指定日を皮切りに、4月上旬から下旬にかけて各県における春闘交渉のヤマ場の形成が報告されました。

また、各県の地域協議会における会長選出や公定幅運賃額の状況報告と、それに対する労働者代表としての協議会への意見報告や、それぞれの地域協議会における問題提起などの報告がありました。

各県報告後には、意見交換を行い、それぞれ地域での課題を抱える中、今後、準特定地域協議会において、労働者の労働条件改善が最優先であることをしっかりと発言していくことが重要であることを全体で確認し、改正法を盾にして春闘を闘う意思固めをはかりました。そして最後は次回の開催県である福井地連川崎誓一委員長の団結ガンバロー三唱で集会は成功裡に終了しました。